

# 普及活動現地情報

## 「農業現場では、今」



【西牟婁振興局】 5/11 重点プロジェクト【持続的なウメ産地の発展】  
～ウメの摘心処理講習会を開催～

令和4年5月号

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

## はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



## < 目 次 >

	頁数
<b>I 海草振興局</b>	<b>1-2</b>
1. 柑橘類の着花状況調査	
2. 春ダイコン優良品種試験	
3. 和歌山県の農業について出前授業開催	
<b>II 那賀振興局</b>	<b>3</b>
1. 那賀地方有機農業推進協議会の総会並びに検討会を開催	
<b>III 伊都振興局</b>	<b>4</b>
1. 重点プロジェクト【新品種導入と担い手の育成による柿産地の活性化】 ～「匠の技 伝道師」による富有柿摘蕾研修会の開催～	
2. 令和4年度かつらぎ町有機栽培実践グループ総会及び有機栽培説明会の開催	
<b>IV 有田振興局</b>	<b>5-7</b>
1. 有田管内着花調査実施	
2. 令和4年度田んぼの学校（有田市立糸我小学校）がスタート	
3. 京都大学野口教授が有田の傾斜地園を視察調査	
4. 「世界農業遺産」認定を目指した設立総会の開催	
<b>V 日高振興局</b>	<b>8</b>
1. 地元の花を見て触れて知る・・・ 「花育」活動を実施	
<b>VI 西牟婁振興局</b>	<b>9-10</b>
1. 重点プロジェクト【持続的なウメ産地の発展】 ～ウメの摘心処理講習会を開催～	
2. 田辺市立上秋津小学校で梅の授業を実施	
<b>VII 東牟婁振興局</b>	<b>11</b>
1. 令和4年産柑橘類の着花状況調査結果	
<b>VIII 農林大学校</b>	<b>12-14</b>
1. 県農林大学校社会人課程がスタート	
2. スマート農業機械の演習スタート！	
3. 刈払機取扱作業安全衛生教育を実施	
4. 容器・包装デザインの講義を受講	

## Ⅸ 就農支援センター

15-16

1. 令和4年度社会人課程開講
2. 令和4年度ウイークエンド農業塾農業入門コース（第1班）開講
3. 令和4年度技術修得研修（第1班）開講

# I 海草振興局

## 1. 柑橘類の着花状況調査

5月10日に海草地域の柑橘類の着花状況をJAわかやま、JAながみね、NOSA Iわかやま、海南市、県の関係者で実施した。調査は市町や地域に分かれて行い、データや園地の印象から生育状況を検討した。

その結果、令和4年産柑橘類の着花量は、品目により園地や樹によるバラツキが見られるものの総体的に平年よりやや多い状況であった。また、新葉数、全体の着葉が中庸であり、表年に当たる本年も樹勢が保たれ表年と裏年の格差は小さくなっていると思われた。満開期は昨年並で、平年より3日程度早いと考えられた。調査参加者の意見を踏まえ、作況や作柄は平年を上回ると予想した。

今後、生理落果が収まった7月以降に生産量調査を行い、販売戦略につなげていく。



園地全体の着花状況を確認

## 2. 春ダイコン優良品種試験

和歌山市の南部は、古くからのダイコンの産地であり、地理的表示（GI）保護制度に「わかやま布引だいこん」として登録されている。砂地で栽培されるため、表面は白くなめらかで、みずみずしい肉質が特徴である。

農業水産振興課では、JAわかやまと連携して、「わかやま布引だいこん」のさらなる品質の向上を目指し、播種時期別に新規品種の比較試験に取り組んでいる。

今回5月19日に、布引地区で3月上旬に播種した4品種を収穫し、ダイコンの長さ、太さ、重さ、表面のなめらかさ、ねじれの有無、食味などについて調査を行った。この結果を基に、産地に導入するかどうか、継続して試験を行うかなど、生産者や産地の関係者と協議し、さらなる産地振興を支援していく。



ダイコン新規品種の調査



収穫した試験品種の比較

### 3. 和歌山県の農業について出前授業開催

農業水産振興課では、小学生等を対象に、農業や地元の農作物等に興味、関心を持ってもらうため、出前授業や体験学習等の指導に取り組んでいる。

5月23日に、和歌山大学教育学部附属小学校5年A組（27名）を対象に、和歌山県の農業の現状、振興局の仕事について萩平普及指導員、向井技師が出前授業を行った。

児童たちは、県農業の特徴や、農業の課題に関する話に興味深く聞き入り「和歌山県は果物や花などが盛んに栽培されていることがわかった」、「農業をする人が減っていることは知っていたが、思っている以上で驚いた」等の感想があった。

今後も農業への理解を深めてもらうよう、出前授業の活動を続けていく。



出前授業の様子

## Ⅱ 那賀振興局

### 1. 那賀地方有機農業推進協議会の総会並びに検討会を開催

有機農業の生産者や販路の拡大、地域交流を目的として活動している那賀地方有機農業推進協議会（会長：関弘和 氏）は、5月23日に令和4年度総会並びに検討会をリモート形式で開催した。

総会では、今年度も国庫補助事業を活用した栽培技術力・経営力向上の取組や安定供給体制の構築に向けての取組、新型コロナウイルスの影響に負けずに販路を拡大していく取組などの事業計画が承認された。

また、昨年5月に国は「みどりの食料システム戦略」を策定し、事業で関連することが見込まれるJA紀の里、紀ノ川農業協同組合や紀の川市も今総会に参加し「有機農業産地づくり推進」や「グリーンな栽培体系への転換サポート」といった有機農業や環境負荷低減農業への取組について協議が行われた。

参加者は、「なにか活用できそうな事業があれば協力して取り組んでいきたい」という意見で一致しており、今後も本協議会を通じて協議・検討を行っていくこととなった。

農業水産振興課では、地域における有機農業や環境負荷低減農業を生産者や消費者に広く知ってもらうため、今後も会活動を支援していく。



会議の様子

### Ⅲ 伊都振興局

#### 1. 重点プロジェクト【新品種導入と担い手の育成による柿産地の活性化】

##### ～「匠の技 伝道師」による富有柿摘蕾研修会の開催～

九度山町の中谷裕一氏は、富有柿の高糖度栽培技術の中で、摘蕾や摘果、肥培管理や整枝せん定について卓越した技術を持っていることから、JA紀北かわかみ組合長の推薦を受け、令和3年6月9日、知事から「匠の技 伝道師」に認定されている。

5月11日、九度山町の柿園において、富有柿の高糖度栽培の優れた技術を紹介するため研修会を開催した。当日は、あいにくの雨であったが、農家4名が集まった。

「匠の技 伝道師」の中谷氏から、柿園において、富有柿の蕾を残す位置、新梢の整理の仕方、蕾と葉の関係等について実演を交えながらわかりやすい講義があった。また、中谷氏の指導のもと、参加農家は摘蕾の実習を行った。

参加した農家から、摘蕾の基本はもとより一歩進んだことが聞け、大変勉強になったという声があった。

当課では、12月にせん定研修会を計画しており、今後も次世代への技術伝承活動を支援する。



ほ場での講義



摘蕾実習

#### 2. 令和4年度かつらぎ町有機栽培実践グループ総会及び有機栽培説明会の開催

5月11日、かつらぎ総合文化会館において、かつらぎ町有機栽培実践グループ（会長：木村義孝氏）が令和4年度総会を開催した。総会には会員ら17名の出席があり、全ての議案が原案どおり可決、承認された。

総会後には有機栽培説明会が開催され、グループ員に加え、有機栽培に関心がある農業者ら28名の参加があった。近畿農政局和歌山拠点 地方参事官 寺田俊之氏からみどりの食料システム戦略について、グループ員3名から柿の有機栽培の取り組みについて説明があった。参加者は、有機農業について積極的な意見交換を行っていた。

当課では、今後も関係機関と連携してグループ活動の支援していく。



説明会の様子



## IV 有田振興局

### 1. 有田管内着花調査実施

5月2日、有田管内の柑橘類の着花状況調査をJAありだ、農業共済組合、JAグループ農業振興センター、近畿農政局和歌山県拠点および県関係機関の職員29名で実施した。

調査は、着花量や新梢の発生状況を目視（達観）により行うため、果樹試験場の樹を見本に、調査項目ごとの基準について全員で確認。その後7班に分かれて、温州みかん118園地と中晩柑類31園地の計150園地を巡回した。

結果、温州みかんの着花指数は、平年を10とした場合、極早生10.2、早生9.1、普通9.9であり、総体的に平年並みであったが園地や樹によるバラツキも大きかった。中晩柑は「清見」で11.3、「はっさく」で10.2、「不知火」で9.4であった。

また、温州みかんの満開期は極早生で5月6日（平年より2日早い）、早生で5月6日（平年より3日早い）、普通で5月7日（平年より4日早い）と思われる。

これらの調査結果と巡回で得た情報は関係機関で共有し、今後の栽培管理の指導に役立てていく。



みかんの開花

### 2. 令和4年度田んぼの学校（有田市立糸我小学校）がスタート

有田市糸我小学校では、糸我地区青少年育成会主催による「田んぼの学校」（校長：山崎佳彦氏）が21年前から行われている。

「田んぼの学校」は当時、育成会の会長をしていた山崎氏が、学校給食から多くの残飯が出ていることを知り、子どもたちにお米のありがたさ、大切さを伝えるために始めた取組である。

児童は苗取り、田植え、稲刈りなど年間を通じて、コメ作りを体験するとともに、アイガモを水田に放して雑草の発生を少なくするアイガモ農法を実践。収穫されたお米は、「鴨・米・美」“カモンベイビー”として、一般の方にも販売されている。

5年生20名は、授業の一環として、5月6日



キヌヒカリと黒米の種まきをする児童

に種まき、ふ卵器への入卵、5月18日にアイガモの卵の発育状況を確認する検卵を実施し、山崎氏と農業水産振興課の森普及指導員より、ふ化に必要な条件や、受精卵の成長の様子について説明を行った。児童らは興味深い様子で、成長している卵を確認していた。

農業水産振興課では、今後も農業教育を推進するため学習の支援を行っていく。



森普及指導員によるアイガモ農法の説明



検卵方法について説明をする山崎氏

### 3. 京都大学野口教授が有田の傾斜地園を視察調査

京都大学大学院農学研究科の野口良造教授らが5月16日に傾斜地みかん園での栽培体系と無人防除施設(スプリングラ防除)について情報収集と見識を深めるため、有田川町のI氏園地を訪れ、栽培実態の調査を行うとともに、県果樹園芸課、果樹試験場、振興局も交え意見交換を行った。野口教授は、これまで果樹栽培での機械化、省力化の研究を行ってきており、現在、果樹園におけるスピードスプレーヤの衛星測位とカメラからのマーカー情報の組み合わせによる自動運転、散布の研究に取り組んでいる。

教授らは、有田地方のみかん園の傾斜度に驚き、作業機械が導入されにくい状況を認識していた。意見交換の中では、モノレール運搬機に非常に興味を持ち、電動化等について提案があった。

その後果樹試験場に場所を移し、県からモノレール運搬機を活用した省力機械の開発などを要望するとともに、今後も互いに情報交換していくことを確認した。



園地でみかん栽培について意見交換

## 4. 「世界農業遺産」認定を目指した設立総会の開催

有田地域の「みかん栽培の礎を築いた有田みかんシステム」（令和3年認定）と下津地域の「下津蔵出しみかんシステム」（平成31年認定）の2つの日本農業遺産の融合により、世界農業遺産の認定を目指す「有田・下津地域世界農業遺産推進協議会」の設立総会が5月26日に果樹試験場で開催された。

協議会の会長にはJAありだの森田耕司代表理事組合長が選出された。世界農業遺産の認定を目指すシステム名は「有田・下津地域の石積み階段園みかんシステム」で、400年前から築き上げられた石積み階段園において、自然条件を巧みに活かした生産・貯蔵技術を駆使し、年内の有田みかんから始まり、年明けの下津蔵出しみかんというリレー出荷を実現している。

この農業システムは6月8日に国へ申請し、FAO、国際連合食糧農業機関の審査を経て令和6年2月の世界農業遺産の認定を目指すこととしている。

農業水産振興課は、協議会メンバーとして助言を行うとともに、認定の実現に向け、支援を行っていく。



「有田・下津地域世界農業遺産推進協議会」設立総会

## V 日高振興局

### 1. 地元の花を見て触れて知る・・・ 「花育」活動を実施

日高地方農業士会（会長：平林孝郎氏）と日高地方花き連合会（会長：弓倉弘氏）は、共催により「花育」活動を5月13日に実施した。「花育」とは、花とふれあう機会を通して豊かな心を育む活動として全国的に広がっている取り組みである。全国有数の花き産地である当地方の花の生産について小学生に知って欲しいと毎年実施しているもので、今年で14回目となる。

本活動にあたっては、管内の花き生産者からスターチスや宿根カスミソウ、ガーベラなど約3,000本が提供された。それらを用いて花き連合会役員および農業水産振興課員が花束を作成し、日高地方の花を紹介したパンフレット、クリアファイル、先生用の参考資料とともに管内の小学校31校の5・6年生（80クラス、1,202名）に届けた。また、希望のあった9校では贈呈式を行い、うち5校ではミニ花束づくり体験を実施した。

日高川町立川辺西小学校では、5年生を対象に贈呈式が行われ、平林会長と弓倉会長らが児童代表に手渡した。平林会長は「きれいな花を眺めるとやさしい気持ちになります。皆さんには元気でやさしい人に育ててほしいです」とあいさつした。続いて、弓倉会長が「スターチスは60種類くらいあって、花の形や色がそれぞれ違います。今日は7種類あるので見比べてみてください。持ち帰った花は花瓶に入れて、水は毎日替えましょう。直接日に当たらない風通しの良いところに置くと花は長持ちします」などと話した。

その後、ミニ花束づくり体験を行い、児童らは「花束を作って花が好きになりました。お母さんにあげて喜んでくれたら嬉しいです」などと笑顔で話していた。

農業水産振興課では、今後も、両会の活動を支援するとともに、花き産地の更なる発展に取り組む。



作った花束を持って記念撮影（川辺西小学校）



贈呈式（稲原小学校）



ミニ花束づくり体験（岩代小学校）

## VI 西牟婁振興局

### 1. 重点プロジェクト【持続的なウメ産地の発展】

#### ～ウメの摘心処理講習会を開催～

ウメの摘心処理は、新梢を10cm程度残して先を切除することにより、結果枝の充実を促し着果を安定させる技術であり、「南高」を中心に導入されてきている。

しかし、農繁期である4月下旬と5月下旬の2回行う必要があることから、作業時間の短縮が課題となっており、当課では4年前から電動バリカンを用いた省力的な摘心処理講習会を実施している。

今年度は4月25日と5月11日に田辺市の3か所の現地にて講習会を開催したところ、生産者29名、JA紀南営農指導員4名の出席があった。

当課の江畑普及指導員より、摘心方法や技術実証園の調査結果をまとめた資料を説明した後、垂主枝や側枝の背面から発生した新梢の先端をバリカンで刈り取る実演を行った。

出席者からは「作業時間が思っていたより短いので、取り組みやすい」、「摘心した樹のせん定はどのようにすればよいか」等の感想や質問があった。

今後、技術実証園の調査を継続し、着果安定効果についてデータを蓄積していく。また、徒長枝発生によるせん定作業の省力化や樹高切り下げによる低樹高化にも活用できる技術であることから、現地講習会等の機会を通じて導入を図り、持続的な産地の発展に取り組んでいく。



摘心処理の説明（秋津川）



摘心処理の実演（新庄）

## 2. 田辺市立上秋津小学校で梅の授業を実施

上秋津小学校での農業体験学習は、農業体験支援委員会（構成：上秋津小学校育友会、上秋津公民館、J A紀南青年部、農業水産振興課）の委員が協議し、活動計画に基づいて平成11年から毎年実施している。

この取組は、地域の主産業である農業について、各学年でテーマを決め、年間を通して学び、体験することにより、農業の素晴らしさを伝えるとともに理解を深めてもらうことを目的としている。

5月13日に当課江畑普及指導員が講師となり、上秋津小学校の6年生の児童（31名）を対象に梅の授業を実施した。江畑普及指導員から梅の産地や生産量、年間を通じた農作業や梅干しができるまでの流れ等について、スライドを使い詳しく説明を行った。その後、事前に児童から集めていた約40の質問について、すべて回答すると、児童らは真剣な表情で熱心にメモを取っていた。

当課では、今後も関係機関と連携しながら、地域農業を軸とした食育を推進していく。



梅の授業

## Ⅶ 東牟婁振興局

### 1. 令和4年産柑橘類の着花状況調査結果

5月2日、18日、20日に管内の柑橘類着花状況調査を実施した。JAみくまの、太地町役場、各生産団体、県関係機関が協力し、ポンカン13園地、ゆず28園地、じゃばら7園地の計48園地の着花数や新枝の発生程度を調査した。

調査の結果、着花数は園地や樹によるバラツキがあり、ポンカンの着花数は平年および昨年よりやや少ない状況だったが、ゆず及びじゃばらの着花数は平年並であった。

また、全園地とも、満開期は昨年並からやや遅く、平年より3日から7日早いとみられる。

一部の園地で着花数のやや少ない園地が見られたことから、少しでも多くの収量を確保できるよう今回の調査結果を今後の管理作業の指導に役立てたい。

また、北山村では、令和3年3月から令和4年3月にかけて、じゃばらを1,000本(約1ha)新植したので、当課では、じゃばらの幹腐病防除対策とともに安定生産の技術指導を行って行く。



ゆずの着花等の調査状況



じゃばらの新植園

## Ⅷ 農林大学校

### 1. 県農林大学校社会人課程がスタート

5月11日、農林大学校において社会人課程の開講式を行った。

社会人課程は、県が厚生労働省の委託を受け、離転職者等職業訓練「農業科」として実施するもので、本年度は5名が訓練を受ける。

彼らは翌年2月までの9か月間、本校において農産物の生産から販売に関する知識や技術を学ぶほか、先進農家等で実践的な技術や経営を学ぶための農家実習も行う。

5月12日からは本格的に研修が始まり、果樹コースでは5月13日にイチジクの芽かきを行った。慣れない農作業に苦戦する様子も見受けられたが、不明点は職員に確認したり、研修生間で話し合ったりしながら一生懸命作業を進めていた。

訓練期間中に多くの知識や技術を習得されることを期待したい。



開講式



イチジクの芽かきを行う研修生

### 2. スマート農業機械の演習スタート！

農林大学校では、学生にスマート農業機械の構造や操作方法を習得させるため、年間5回の演習をスタートした。

1・2年生30名を3班に分けて4月26日、5月10日、5月17日に、スピードスプレーヤ、ラジコン草刈機、畝たて成形機の演習を行った。

最初に職員から機械の構造や安全に操作するための注意点などを説明し、その後デモンストレーションを行った。学生らは初めて見る機械でもあり「スピードスプレーヤは動噴での薬散より楽そうだ」「ラジコンで草刈機が動くのだなあ」など熱心に聞き入っていた。中でもラジコン草刈機の操作に興味を持ち、緩傾斜の除草作業にも積極的に取り組んでいた。

12月には、無人航空機（ドローン）や自動運転トラクターの演習が外部講師により行われる予定である。





ラジコン草刈機の操作



スピードスプレーヤの説明

### 3. 刈払機取扱作業者安全衛生教育を実施

5月19日、農林大学校において刈払機取扱作業者安全衛生教育を実施した。受講者は1年生14名、社会人課程5名の計19名で、「刈払機取扱作業者に対する安全衛生教育について（労働省労働基準局長通達（現厚生労働省、平成12年2月16日付））」に基づいて行われた。内容は、刈払機の点検及び整備や、振動障害及びその予防についてなど多岐にわたり、受講者は熱心に聴講していた。

農作業において雑草対策は重要な作業の一つであり、しかも農業者への負担も大きい。刈払機は草刈作業に多く使用されているが、転倒、刈刃の跳ね返り、刃に飛ばされた物による作業員本人や周囲の人の負傷など非常に危険な作業となる。また、労働環境により熱中症や振動障害等の危険性も考えられる。

今後実習で刈払機を使用する際は、危険な作業にもなりえることを念頭に置きながら安全に作業を進めてほしい。



講義開始



保護具の説明

#### 4. 容器・包装デザインの講義を受講

5月16日、農学部アグリビジネス学科2年生2名が、容器・包装デザインの講義を受講した。この講義は、様々なパッケージデザインを見ながら、魅力ある見せ方や商品特性を踏まえた商材の選び方などを学び、農業生産の知識だけでなく売するためのノウハウを習得することを目的としている。講師は「株式会社はりまぜデザイン」の角田誠先生にお願いし、前期15時限で履修する。

この日は、パッケージとは包材であるとともに相手に伝えるデザインが付け加えられることを事例を交えながら説明を受けた。本講義の内容が、卒業論文の取組をはじめ今後の活動に活かされることを願っている。



講義の様子

## Ⅷ 就農支援センター

### 1. 令和4年度社会人課程開講

5月11日、就農支援センターにおいて社会人課程（離転職者等職業訓練「農業科」）がスタートした。本年度は、県内外から7名が受講することになり、来年2月10日までの約9ヵ月間、講義と実習、農家研修などを実施する。

開講式では、中谷所長の挨拶に続き、受講生一人ひとりが研修で学びたいこと、将来の展望などを語った。その後、オリエンテーションと場内説明を行った。開講式の翌日から、研修生は果樹・野菜・花きのそれぞれの講義と実習に臨んだ。これからの研修生らの頑張りに大いに期待したい。



社会人課程の開講式



[実習]アスターの収穫

### 2. 令和4年度ウイークエンド農業塾農業入門コース（第1班）開講

5月14日、週末を利用して農業の初歩的な知識や技術を学ぶウイークエンド農業塾農業入門コース（第1班）が開講した。一昨年、昨年は新型コロナウイルス感染拡大による影響で中止や日程変更を行ったが、今年度は計画どおり正規日程での開講となった。今回は県内外から14名の研修生が「退職を機に自家の農地を耕作して果樹や野菜を作りたい」、「将来の就農に向けて農業の基礎を学びたい」などの抱負をもって参加した。

開講式では中谷所長が挨拶を行い、その後、午前中は講義、午後は動力噴霧器等農業機械の取り扱いについて実習を行った。翌日は「農薬の安全使用」、「柑橘の栽培」の講義の後、ブドウの整房・誘引、キウイフルーツの摘蕾について実習を行った。

今後、研修生は7月10日まで計10日間の日程で、果樹、野菜、花きの栽培方法などの基礎知識を学ぶ。



ウイークエンド農業塾（第1班）開講式



[実習] 動力噴霧器の取り扱い



[実習] ブドウの整房



[実習] キウイフルーツの摘蕾

### 3. 令和4年度技術修得研修（第1班）開講

5月16日、県内外から5名の研修生を迎え、技術修得研修（第1班）を開講した。研修生は、5～9月の5ヵ月間（全25日間）、講義と実習を通じて農業の基礎的な知識や技術を学び、就農に必要な実践力を身につけていく。午前は開講式に引き続き、県内の果樹・野菜・花き産地の概況等について講義を行った。午後からは、ナスの定植準備とイチゴの育苗について実習を行った。就農支援センターでは、研修生が本研修終了後にスムーズに就農できるよう、充実した研修メニューで支援していく。



技術修得研修の開講式



イチゴの育苗に関する実習

### 普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4919
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489